

## 第 4 回 9 条世界宗教者会議報告

### これまでの経緯

ここ十年来日本においては、「戦争をする国」への法整備として、あっという間に「日の丸・君が代一国旗・国歌法」、「盗聴法」、「有事法制」が制定されました。それに加えて、愛国心教育を軸とする「教育基本法」が改訂され、「9 条」をターゲットとした憲法改訂の準備が着々と進められています。また、憲法「改正」を目的にした国民投票法案（日本国憲法の改正手続に関する法律案）が、2010 年 5 月 18 日に施行され、改憲への道が大きく開かれました。2012 年には自民党・憲法改正推進本部が「日本国憲法改正草案」を発表、年末には安倍内閣が誕生、今年になって 2020 年のオリンピックまでに憲法を改正したいと語るなど、「改憲」と「戦争をする国」への既成事実が積み上げられ、動きが加速化しています。

日本におけるこれらの危険な動きに対して宗教者は座視することができません。私たち宗教者は、「殺すな」「不殺生」の信仰の立場から非暴力による平和の実現を確信し、さらに世界の人々と共に平和憲法 9 条を活かし、守る協働の具体化をはかる緊急課題に共に取り組もうと決意いたしました。このように、私たちは「非暴力・平和」への動きを推進するため、平和憲法 9 条を世界に発信しようと「9 条アジア宗教者会議」の開催を呼びかけるに至りました。

9 条アジア宗教者会議は、第 1 回会議を 2007 年 11 月-12 月にアジアや世界における宗教指導者の参加・協力により、東京の在日大韓 YMCA にて開催いたしました。その後、韓国宗教者の熱意と協力のもと、第一回同様にアジアや世界における宗教指導者の参加・協力を得て、第 2 回会議を 2009 年 12 月にソウルで開催いたしました。ソウル会議の席上、参加者からの提案により、第三回会議を 2011 年 10 月に沖縄で開催、憲法 9 条がノーベル平和賞の候補に挙げられた今年 2014 年、第 4 回を「9 条世界宗教者会議」と名前も改め、東京で開催することになりました。

### 準備委員会

準備委員会は日本キリスト教協議会議長小橋孝一氏を委員長とし、カトリック徳田教会大倉一美氏、庭野平和財団野口陽一氏、日本山妙法寺武田隆雄氏、沖縄キリスト教平和研究所の金井創氏、アジア学院のデイビッド マッキントッシュ氏、日本キリスト教婦人矯風会の上田博子氏の各氏が委員を務めました。今年度の概要は 2014 年 4 月 10 日第 4 回会議で決定されました。

#### 第 4 回 9 条世界宗教者会議主題・副題

開催に先立ち、6月23日開催の第6回準備委員会で主題と副題が以下のように決定されました。

主題: 憲法 9 条と世界平和

副題: ナショナリズムをどう超えるか

趣旨説明: ナショナリズムとナショナリズムの衝突が世界のいたるところで悲惨な争いを引き起こしています。宗教者として世界平和を希求する私たちは、ナショナリズムを超えて共働することを目指したいと思います。今回の会議は憲法 9 条を日本やアジアだけのものではなく、世界の宝とし、ナショナリズムを超える道を探ります。

#### 第 4 回 9 条世界宗教者会議概要

第 4 回 9 条世界宗教者会議は 2014 年 12 月 2 日(火)～5 日(金)にわたり、YMCA アジア青少年センター(在日本韓国 YMCA)を主会場に、またカトリック神田教会にも協力をいただき、開催いたしました。参加者は 10 カ国、44 団体、120 人に及び、うち海外からの参加者は 27 名でした。また、参加団体は以下のとおりです(敬称略、名前順)。



CCA: アジアキリスト教協議会/CCC: 中国基督教協会/CGMB: 米国合同教会 & ディサイプルス(クリスチャンチャーチ)/GPC: カンバーランド長老教会/EKD: ドイツ福音主義教会/EMS: ドイツ連帯福音宣教会/HKCC: 香港キリスト教協議会/IBS: 在日本インターボード宣教師社団/International Network of Engaged Buddhists (INEB) /JACC: 日本同盟基督教団/JBC: 日本バプテスト連盟/JBU: 日本バプテスト同盟/JELC: 日本福音ルーテル教会/KCCJ: 在日大韓基督教会/KYOFUKAI: 日本キリスト教婦人矯風会/NCCJ: 日本キリスト教協議会/NCCK: 韓国教会協議会/NCC 女性委員会/NPF: 公益財団法人庭野平和財団/PROK: 韓国基督教長老会/UCA: オーストラリア合同教会/UCCJ: 日本基督教団/UMC: 合同メソジスト教会/WCC: 世界教会協議会/WF: ウェスレー・ファウンデーション/Zay Gone Monastery, Myanmar (ミャンマー)/お題目九条の会/カトリック中央協議会正義と平和協議会/パックス・クリスティ

(米)/マレーシア・ムスリム協会/沖縄キリスト教学院大学/沖縄キリスト教平和研究所/沖縄バプテスト連盟/沖縄宗教者九条ネットワーク/宗教者九条の和/真宗大谷派九条の会/大韓聖公会/日本 YMCA/日本 YWCA/日本山妙法寺/日本聖公会/念仏者九条の会/平和を実現するキリスト者ネットワーク/立正佼成会

今回の開催に関しては、以下の団体、個人よりご支援金を頂きました(あいうえお順)。

IBS: 在日本インターボード宣教師社団/AYUS: 仏教国際協力ネットワーク/ EMS: ドイツ連帯福音宣教会/ EKD: ドイツ福音主義教会/お題目九条の会/カトリック中央協議会正義と平和協議会/教団沖縄教区/庭野平和財団//Kam Cheong PO 氏 (HKCC: 香港キリスト教協議会)/UMC: 合同メソジスト教会宣教局

特に今回の大きな動きは、WCC:世界教会協議会のオラフ・トヴェイト総幹事の会議全期間の参加が確定したことでした。総幹事は先にWCCの中央委員会が2014年7月9日に採択した四つの『声明』(Statement)のうち二つ、「核から解放された世界に向けて」と、「日本国憲法第9条の再解釈についての声明」を直接安倍内閣に手渡すため8月に来日予定のところ、健康上の理由でかなわず、声明は代理でチャン・サン議長が菅義偉内閣官房長官と面談、手渡ししております。従いましてオラフ・トヴェイト総幹事は今回が初めての来日でした。

#### 会議前日および準備態勢

12月1日は世界各国からの参加者が到着する日でした。空港からの案内を希望されるゲストのため、東京YWCAのILV(インターナショナルランゲージボランティア)の皆様にご協力いただき、成田、羽田で出迎えを実施いたしました。



#### 12月2日(第1日目)

第1日目は希望者による横須賀海軍基地、ならびに米軍厚木基地の見学を実施いたしました。日本キリスト教団高座渋谷教会員の久保博夫氏、ヨコスカ平和船団の市川平氏にご協力いただきました。参加者は46名(内海外からのゲスト19名)でした。乗船した軍港めぐりクルーズ線は米海軍第7艦隊の基地がある横須賀本港と、海上

自衛隊司令部のある長浦港を巡るもので、米海軍や海上自衛隊の艦船を間近に見ることができました。米海軍のイージス艦、海上自衛隊の潜水艦や護衛艦、当時寄港していた原子力空母ジョージ・ワシントンを見ることができました。潜水艦が海面から少し頭をのぞかせている様子は大変不気味であり、米海軍所有の船艦と海上自衛隊所有の船艦が入り乱れて停泊している光景は、もはやここがどこの国かわからなくなるようなものでした。

その後米軍厚木基地に北上、厚木基地爆音防止期成同盟の大波修二議員にご案内いただき、厚木基地南側の大和ゆとりの森公園から厚木基地を一望しました。厚木基地からは朝鮮戦争からベトナム戦争の時代には、毎日のように戦地に向け発進されていたとのこと。現在は横須賀に空母が寄港している際に、厚木基地と空母の間でF18戦闘機のタッチ&ゴー訓練が頻繁になされています。公園の小高い丘の上に立つと、空母に向けて帰還するため、爆音と共に滑走路から一気に加速して飛び立つF18が見えました。丘の上に立つ我々に突っ込むようになってくる様子は、威嚇しているようで、爆音の凄まじさと突風に頭を抱え込むほどでした。

12月3日(第2日目)

午前中は平和遺族会全国連絡会代表西川重則氏の案内で靖国神社、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑を見学しました。参加者は37名(内海外からのゲスト15名)でした。墓苑・神社、いずれも木々の木立が美しさを放っていたので、海外からの参加者はしきりと写真撮影を楽しみましたが、国内参加者の中には、靖国神社の性質上、気分を悪くしてツアーを離脱される方もありました。

正午よりの本会議受付時に「九条を世界へ種まきプロジェクト」代表くずめよし氏と西南学院大学の学生の協力により、九条Tシャツを配布しました。

午後からの本会議、「右傾化する日本の歴史認識と憲法認識」というテーマで、東京大学教授高橋哲哉氏に基調講演をお願いしました。氏は講演の中で韓国および中国との歴史問題および領土問題での対立、日本国民の韓国に対する感情、中国に対する感情が急激に悪化している現状のなかで、敵対感情を高めるに任せて戦争に至ることだけは絶対に避けなければならないし、日本の中で過去の歴史に対する反省を忘れた危険なナショナリズムが高まらないように、冷静で理性的な歴史認識が定着することが必要であると説き、また靖国神社の公式参拝を可能とする憲法改正案の動きは、在日やアイヌ、沖縄等、天皇に統合されない帰属意識を持つ人々に対する新たな「皇民化」の強要と抑圧にもつながりかねないとの危機感を表明されまし

た。

続いてWCC:世界教会協議会のオラフ・トヴェイト総幹事が「日本国憲法九条—北東アジアの平和の礎 アジアとアジアを超えて」というテーマで講演され、その中で氏は今年の7月にWCC中央委員会が第九条に関する声明を採択したことを取り上げ、声明の中で第二次世界大戦中に日本軍によって強制的に性奴隷にされた女性の悲劇的な歴史は、「戦争に対する憎悪と、無実でか弱い人々の生活に及ぼす破壊的な影響を常に思い出させるもの」としつつ、「日本が本当に平和な国になることを期待して平和憲法を擁護」している日本の教会や団体を賞賛していると述べました。また声明が「日本政府が、日本国憲法第9条を再解釈もしくは変更しようとする方向を主導的に示していることに対し、またそれが、この地域の安全、同憲法が禁じてきたことによって提示されてきた建設的な範例、また、世界の平和と非暴力に向けた諸努力に与える衝撃に対して、重大な懸念を有していることを表明するものである」としていることに触れ、憲法九条は、過去を癒し、現在を導き、未来を形作るのに有効で、北東アジアの平和のための柱として機能することができるが、その柱はまだ未完成である、この宗教者会議や、様々な市民の動きは憲法九条が平和の柱となることを完了するために必要となるとの確信を語られました。

夕方からのストーリーシェアリング(現場からの報告)では沖縄キリスト教学院の知念優幸(まさゆき)氏が「沖縄のいま～平和を思考する～」というテーマで、琉球王国の時代からずっと日本の圧政を受け続けている沖縄の現状を説明、福島放射能問題、在日韓国朝鮮人に対するヘイトスピーチ。それらが蔓延る社会は決して平和ではないとし、抽象的ではなく具体的な平和の観念を希求しなければいけないと訴えられました。

続いてEMS:ドイツ連帯福音宣教会のフリードヘルム・シュナイダー牧師が、「東京会議への提言」というテーマで、戦後ドイツが1949年のドイツ連邦共和国の「基本法」の前文に、「世界平和に貢献しようとする決意に満ちて」と書き、また第1条で「人間の尊厳は不可侵である。これを尊重し、保護することはすべての国家権力の義務である。ドイツ国民はそれゆえに侵すことのできない、奪うことのできない人権を、世界のあらゆる人間社会、平和、および正義の基礎として認める。」としながらも、現実にはドイツは世界最大の武器輸出国のひとつである。この背景には、非常に綿密な政治の軍事化プロセスや言葉の言い換えがあったとし、教会はこれに強く抵抗し、政治による軍事化の動きを減速される集団的な意見の形成に大きな役割を果たしてきたと述べられ、この会議が私達をより強くして、非暴力と平和が達成されることを望むと締めくくられました。

夜の歓迎レセプションは司会を日本YWCA総幹事西原美香子氏にお願いし、庭野平和財団理事長庭野浩士氏、CGMB:米国合同教会&ディサイプルス(クリスチャンチャーチ)のJames Moos氏にごあいさつを頂き、くずめよし氏と西南学院の東伶香さん、金森有紀さんによる日本舞踊のアトラクションがありました。



12月4日(3日目)

朝祷後、聖護院門跡門主の宮城泰年氏が、「憲法9条と世界平和 ナショナリズムをどう超えるか」というテーマで講演されました。氏は、愛国心を主義・イズムとしてはならない、主義となるとそこには対立する主義がある。ネーションとネーションを繋ぐものはイズムではなく、互いに生かし合う尊重と理解であるべきであると、説かれました。また、イズムによる対立は政治的権威を背景に欲望と偏見から生まれ、正義の名のもと己を是とし、他を非とする。そこに闘争を生じ、国家的政治的には戦争を惹き起こす。人の心が平和を作るのである。その心が9条を作りまた守れるのである。宗教の違い、主義の違いなどにより我を是とし他を非として対立する誤った見解を、誰もが少なからず持っていることを認識し、一人一人の心にその欲望に対するくさびを打たねばならない。それは他を尊ぶ、尊重する心がなくて他への理解はあり得ないからである、と説かれました。

続いてのストーリーシェアリングでは、まず韓神大学教授、平和と公共性センター長の李起豪(イ・キホ)氏が「アジア平和に向かう平和憲法9条と市民国家の模索」というテーマで、朝鮮半島の分断体制と「敵」を必要とする同盟外交に助長された韓国の排他的ナショナリズムへの道への反省を踏まえ、排他的民族主義に陥りやすいナショナリズムに基づいた国家思想や国民国家の建設ではなく、ヒューマニズムに基づいた市民性、道徳が生き返り、倫理の問題を優先的に省察することのできる市民国家(Civic State)の夢を育てる必要があり、平和憲法9条は、このような時点において私たちにナビゲーションの役割となっているとの期待を語られた。

つづいてミャンマーの仏教徒、ウ・ダマタラ氏が「平和と宗教」というテーマで、ミャンマ

一でも実際に起こっている醜い宗教上の争いや、それが死者をともなう暴動まで発展した実例を紹介されながら、平和は言葉だけでは実現されない、我々は協調しなければならない、我々は協力して、解決策を見いださなければならない、我々は全ての民族の様々な価値観を受け入れ、自分たちが最善と思うものは何でも受け入れていかなければならないと語り、ミャンマーのことわざ「愛に飢えた子供は、大人になっても人の愛し方を知らない」を引用し締めくくられた。

3つ目の発題はマレーシアのイスラム教徒で、公正な社会のための国際運動(JUST)代表のチャンドラ・ムザファー氏によるもので、氏は「9条の再解釈～平和の希求から紛争の誘発へ～」というテーマで、安倍政権の9条再解釈の後押しとなった安倍氏の国粹主義者的な姿勢やアメリカの権威回復への動きを踏まえ、反対の立場を貫くには、キリスト者に加え、アジアで最も多い信仰者数を有するイスラム教の役割は大きいとしながらも、7月のWCCの中央委員会での声明を高く評価された。また第1回の世界宗教者会議での声明に触れ、

- 1) 憲法9条を全人類の財産として大切にし、世界に9条ネットワークをつくる。
  - 2) 各国の憲法の条文に戦争の放棄と非武装の条項が加えられるように働きかける。
  - 3) あらゆる機会に戦争放棄を公けに呼びかけ、人類の歴史に新しい道を開く。
- あらためて、我々は9条アジア宗教者会議で表明した考えや理念を世界に訴えかけていく必要があると訴えられた。

一方事務局は声明文起草委員会の人選を進め、CCC: 中国基督教協会の Mengfei GU 氏、UCA: オーストラリア合同教会の Carlos OCAMPO 氏、PROK: 韓国基督教長老会の Seung-Min SHIN 氏、Francisco HERNANDO 氏、HKCC: 香港キリスト教協議会の Kam Cheong PO 氏、EMS: ドイツ連帯福音宣教会のフリードヘルム・シュナイダー氏、CGMB: 米国合同教会 & ディサイプルス(クリスチャンチャーチ)のJames MOOS 氏、アジア学院のデイビッド マッキントッシュ氏、日本キリスト教婦人矯風会の上田博子氏が選任されました。

3日目の午後はこれらの委員が各グループに加わり、日本語、韓国語、英語と3分団に分かれ、共同声明作成に向けての分団討議を行いました。分団討議終了後、それぞれの分団での討議事項を発表、共有し、それらを受ける形で声明文起草委員会は声明文の準備に入りました。

12月5日(4日目)

朝祷後、デイビッド マッキントッシュ氏が司会、参加者全員で共同声明の内容をさら

に詰め、休憩を含んで文面の最終確認を行いました。また、International Network of Engaged Buddhists (INEB)のジョナサン・ワッツ氏から連帯に向けてのあいさつを頂きました。

午後には記者会見の場を設け、中外日報社、仏教タイムズ社、新宗教新聞社、キリスト新聞社、クリスチャン新聞、クリスチャントゥデイ、清水雅人氏、Regina KARASCH-BOETTCHER氏(EMS 広報担当)の参加を得て『第4回「九条世界宗教者会議」声明 - ソウル・沖縄から再び東京へ』を発表しました。発表は日本キリスト教協議会議長小橋孝一氏、WCC:世界教会協議会総幹事オラフ・トヴェイト氏によって行われました。共同声明は以下の行動への提案をもって締めくくられております。



#### <宗教界に向けて>

- ・日本や韓国、及び他のアジア地域で、九条の活動を実施するための東アジアの国内ワーキンググループを形成することを呼びかけます。
- ・教育教材の作成、創造的なメディアを用いて、憲法九条運動に若者にも関わってもらえるようにすることを宗教界に呼びかけます。
- ・世界中のすべての宗教の平和支持者たちに、9月21日の平和のための国際デーに憲法九条の精神の普及のための祈りも加えていただくよう呼びかけます。
- ・日本の人々が憲法公布を覚える5月3日の憲法記念日を、他国のすべての宗教の平和支持者たちと信仰共同体が、覚えていただくよう呼びかけます。
- ・正義と平和への巡礼の一環として、宗教者九条会議を WCC が主催する可能性を検討するように呼びかけます。
- ・アジアでイスラム教徒が多数を占める国において、宗教者九条会議を主催する可能性を考慮することをイスラム教徒に呼びかけます。
- ・平和、統一と憲法九条を促進するために、憲法九条保護の指導者たちによる連帯のための北朝鮮と韓国への訪問の支援を CCA に呼びかけます。
- ・米国への憲法九条連帯のための訪問を企画することを北米アジア太平洋フォーラム (The Asia Pacific Forum of North America)に呼びかけます。



＜市民社会に向けて＞

- ・憲法九条の平和の精神を実現するために、市民社会の平和支持者との連帯の強化に努めていきます。
- ・憲法九条とそれに関係する精神を学校教育に取り入れるよう、平和支持者と協働します。
- ・憲法九条をノーベル平和賞にノミネートし、その受賞を求める憲法九条支持者の継続的な取り組みを支援します。

会議はオラフ・トヴェイト夫妻を始め、多くの海外からゲストを含んで50名が参加した平和行進を持ってすべてのプログラムを終えました。平和行進では「平和」をあらゆる国の言葉で合唱、日本山妙法寺の江上彰氏の警察と綿密な打ち合わせのおかげで、終始整然と行われました。

写真前列左より浄土真宗大谷派の小武正教氏、日本キリスト教協議会議長小橋孝一氏、カトリック徳田教会大倉一美氏、WCC：世界教会協議会総幹事オラフ・トヴェイト氏、HKCC：香港キリスト教協議会のKam Cheong PO氏



なお、オラフ・トヴェイト氏は2015年1月16日、内閣総理大臣宛に「世界教会協議会より日本国憲法第九条に関しての見解」という、当会議に参加しての感想と見解を送られました。その中で氏は、「憲法九条は再解釈されるべきではなく、むしろ再確認されるべきです。1993年の河野談話、1995年の村山談話、そして2010年の菅談話によって、日本国政府が近隣諸国に与えてきた歴史的苦難の事実について正式に言及したことは評価されるべきです。われわれは憲法九条が国内政治の周辺でなく、日本の国際政治の中心に置かれることを望んでおります。」「われわれは憲法九条が日本の豊かな歴史の中で重要な位置を占めていること、決して過去の遺物ではなく、未来への規範であると確信していることを申し添えます。」と語っています。

会計

前回よりの繰越金七百万、支援金および参加費三百万、計一千万の収入に対し、支出が九百万、次回への繰越金が百万で決算しました。

#### 協力感謝

東京YWCAのILV(インターナショナルランゲージボランティア)には空港への送迎、会議資料の和訳や、海外からのゲストのお世話にご協力いただきました。

UMC: 合同メソジスト教会のグローバルミッションフェロー、Kaj HEUREUSE、Hye-in LEE の両氏、日本山妙法寺の江上彰氏には全期間を通して受付を担当していただきました。

今回会議の同時通訳システム全般、パナガイドシステムの貸し出し、通訳者用ヘッドセットのセッティングなど立正佼成会儀式行司部に全面的にご協力をいただきました。

同時通訳は、在日大韓基督教会の曹泳石氏、許伯基氏、日本基督教団のマーサ・メンセンディーク氏、アジア学院のデイビッド・マッキントッシュ氏、家の教会しおんの遠藤優子氏にご協力いただきました。

以上、感謝申し上げます。